

令和6年度 第2回 丹波市丹（まごころ）の里創生総合戦略推進委員会

日時 令和6年8月19日（月）

19時00分～20時45分

場所 氷上住民センター 実習室

出席者（敬称略・順不同）

○委員：杉岡秀紀会長、八尾由江委員、大野亮祐委員、中川フェテレウォルク委員、畑道雄委員、赤井俊子委員、大木玲子委員、中井昌彦委員、足立芳史委員、小林芳晴委員、

※欠席：藤本理恵委員、藤井叙人委員、荻野祐一委員

○丹波市 細見正敏副市長

（事務局）清水ふるさと創造部長、磯崎総合政策課長、垣内総合政策課政策係長、村上総合政策課政策係主査

1 委嘱書交付

2 開 会

3 副市長あいさつ

4 報告事項

（1）第3期丹波市丹（まごころ）の里創生総合戦略策定に向けた意識調査結果について

（事務局説明）

委員：アンケートの回収率が低く、丹波市の実態を示しているかについてご意見はあるかもしれないが、アンケート結果が丹波市全体の骨格を表すことはできている。女性のみアンケートを実施しており、市内だけでなく市外の人も調査対象としたことが最大のポイントであり、仕事やキャリア形成、医療・福祉、子育て支援について、改善すべき点があるとの調査結果となっている。

委員：回答者のうち、子育て世代がどの程度占めているのか。

委員：資料2の8ページをご覧くださいと、家族構成が記載されている。約4割が子育て世代と推測できる。

5 協議事項

(1) 第3期丹波市丹(まごころ)の里創生総合戦略策定に向けた取り組むべき施策について

①資料の説明

(事務局説明)

②グループワークによる施策の検討

【グループA：基本目標1 魅力的なしごと・多様な働きかた・働きやすい環境をつくる】

(1) 女性や若者が自身の能力を活かし、意欲的に働くことができる

- ・就業する前にキャリアアップ研修に参加したら、スキルに応じた職場紹介やポイント付与が受けられる取組。
- ・起業支援にあたっては、サポートする相談窓口が必要である。経理や雇用などしっかり学んでもらったうえで、起業してもらい、起業後のサポートも手厚くしていくといった仕組みづくり。

(2) 仕事と家庭を両立する女性が増えている

- ・急な予定変更(こども園にこどもを迎えにいかねばならなくなるなど)や休むことに柔軟に対応できる職場環境が整った企業が増やす取組。
- ・こどもを連れて仕事、会議に参加できる職場づくり。(このような働き方を実現することで、女性の就業に対するハードルが下がる)
- ・多様な働き方や、ワーク・ライフ・バランスを考える企業を増やす取組。
- ・有給休暇を取得させる企業に、奨励金や補助金を交付する仕組みづくり。
- ・企業の意識改革に向けた取組み。(女性管理職の登用、女性職員の雇用率アップなど)
- ・会計年度職員や非正規職員の有給日数が少ない。こどもが熱を出した場合、すぐに使い切ってしまうため、正規職員と同様の雇用体系に合致させるなどの環境整備。
- ・えるぼし認定(プラチナ企業)の認知度は低いため、丹波市独自で、子育て応援企業に対して、認定基準を設けPRする仕組みづくり。(認定にあたっては、該当の企業を評価する必要がある、PR、表彰だけにとどまらず、金銭的なサポートなどメリットを設けてあげると良い。)

(3) 市内の事業所が継続的に発展している

- ・丹波市に働く場所がないのではなく、どのような企業があるのか知らない人が多いため、魅力的な企業の情報発信。
- ・若い人は、そもそも就業にあたって、何かをしたい、あるいはこのような雇用体系で働きたいといった具体的なビジョンを持っている人が少ないように感じる。このような人に対しての情報の発信。
- ・若い人がどのように就職情報を集めているかの実態調査。

- ・スーパーアルバイター（優秀な人材、スキルを持った人）などの人材の発掘。（デジタルを活用して、登録してもらい、人手が不足している企業とのマッチングなど。）

（４）その他意見

- ・パートで働きたい、正職員で働きたいなど希望は多様にある。多数派は、そのような勤務体制を見て、正職員での就業を選択されている。職業自体に魅力を感じて、夢や生きがいとして仕事を求められている人は少数派である。多様な働き方といっても、この２つは切り離して考え、それぞれに施策を考えていく必要がある。

【グループB：基本目標２ 希望が叶い、みんなで子育てを応援するまちをつくる】

（１）結婚・出産したい人が希望を叶えられる環境の整備

- ・産後のアフターケアに向けた環境整備。（本来母親が身近にいれば頼ることができるが、そうでない人もおり、気軽に相談しやすい環境整備が必要。）
- ・おせっかいマスターだけではなく、出会いに関するチャンネルを増やし、出会いに対する敷居を下げる取組。
- ・企業や団体が登録し、出会いをサポートできる仕組みづくり。
- ・新婚の方などが、市内店舗で割引サービスが受けられる結婚パスポートの取組。

（２）一人ひとりが希望する子育てを応援する環境の整備

- ・丹波市は「男性が子育てするまちです」など効果的な情報の発信。
- ・保育士の処遇改善や都会から人を呼び込むために、車の免許取得支援など資格取得の支援。
- ・男性への家事育児支援や啓発、研修の取組が必要。
- ・丹波市に戻ってこられる人への住宅改修に係る補助制度の創設。
- ・定時退庁ができる働き方や給与の改善。（都会とは同じ仕事内容でも給与が違う）

（３）すべてのこどもの健やかな育ち

- ・遠隔などによる専門教育の充実。（より専門性の高い教育の実施）
- ・子どもへの外国語や理系教育の推進やタブレットを活用して、習い事ができる仕組みづくり。

（４）その他

- ・女性ばかりに目が行きがちだが、男性も日役などジェンダーに関する課題がある。
- ・男性が手伝うではなく、男女が自然に助けあえるように取り組む必要がある。特に自治会では理解が進んでいない。

【その他質疑応答】

委員：豊岡市には地域おこし協力隊が約 30 名在籍されているが、7～8 割が定住されている。丹波市はどの程度おられるのか。

事務局：丹波市では現在 4 名おられる。

委員：北海道の東川町など地域おこし協力隊が 50 名を超えているまちもある。宮津市では、夫婦で地域おこし協力隊になってもらう取組もある。受入側の支援体制が重要であり、また人数だけに拘りすぎてもいけない。

委員：丹波市はなぜ 4 名しかいないのか。

事務局：業務にあたり市が課題設定を行う「ミッション型」を採用しており、各部署が他の業務の兼ね合いもあり、十分に活用できていない。外部の中間支援組織などを取り組めるようになれば、人数は増えるものと考えている。

委員：福知山市も現在 3 名となっており、委員の皆様も興味がある内容であるため、次回の推進委員会で事務局から地域おこし協力隊について、ご説明いただきたい。

6 次回推進委員会開催日程

第 3 回丹波市丹（まごころ）の里創生総合戦略推進委員会

日 時：令和 6 年 8 月 30 日（金）午前 10 時

場 所：氷上住民センター 実習室

7 閉 会